第 17 号　平成 25 年 7 月 10 日発行

第 30 回目となるバスツアーは、東日本大震災で被害を受けた茨城県鹿嶋市と千葉県香取市を訪れました。鹿嶋市では、鹿島港から流入した津波で 126 棟が被害を受け、液状化被害は 1255 棟を数えました。香取市では、東京ドーム 約 750 個分・約 3,500ha で液状化被害が発生しました。いずれも利根川が形成した軟弱な地盤と人工改変が被害を誘発しました。昨秋の展示でお世話になった龍蔵院のみなさんから津波体験や教訓をお話いただきました。伊能忠敬の故地である佐原では、町並みのなかにまだ継続中である東日本大震災を実感していただけたと思います。

◆鹿島神宮　みなさんのアンケートから　女性○、男性●、（参加回数）です。

●武の神を祀り常陸国一の宮である鹿島神宮をお参りできて感激している。極彩色の色鮮やかな社殿は、国の重要文化財にふさわしい荘厳さである。要石は小さいのにびっくりした。それにしても雨で残念でした（6 回目）
●広い境内と森林、さすがに一の宮です（10 回目）
●シーンと静まりかえった参道、背筋をピーンと、歩いてお参りしてきました（初参加）
○久し振りに深い杉木立の中、厳かな気分になりました。塚原卜伝のドラマが思い出されました（2 回目）
○要石まで歩くことが出来、一茶の句など静かに楽しめました（初参加）
●27 年前の娘の七五三の時に行ったが、全然変わっていないのに驚いた（初参加）

●社が意外に小さかったのと、参道が正面になかったのが驚き（説明を聞き納得）。おおいに森林浴が出来よかったです（13 回目）
○森林深く、よい空気を味わいました。「要石」をと期待したら、いやぁ立石様のほうが、見るかぎりでは立派？でした（笑）（7 回目）
○マイナスイオン一杯、さすが一の宮。剣の道を守る聖地と思っておりましたが･･･。香取神宮と同日に見に来たいと思いました（9 回目）
●住金には 15 年前は毎週のように納品廻りに来ていましたので、鹿島は楽しくうれしかった（7 回目）
○要石を初めてみました。存在すら知らなかったので不思議な気持。なまずと地震の関連？が面白い（5 回目）
○地震と神様の元締めの鳥居が倒壊。俗界と聖域の境目が、あれ～～ない！！（15 回目）
○この森は、いのりの森か？（初参加）

TOUR DATA		
時間	経過	滞在時
7:30	博物館出発	
7:45	四つ木IC	
8:19	宮野木JCT	
8:32	酒々井PA	13分
9:15	潮来IC	
9:27	鹿島神宮	58分
10:38	長栖龍蔵院	82分
12:15	道の駅　いたこ	70分
13:36	佐原香取IC	
16:13	伊能忠敬記念館他	80分
16:30	水の郷　さわら	60分
17:00	湾岸幕張PA	15分
17:55	四ツ木IC	
18:10	博物館着	
内山観光バス：フェニックス号		
ドライバー：小貝享史　さん		
走行距離：236 km　（倍率1.1倍）		
応募47名、当日参加46名		
参加費3100円/見学実費800円		

いにしえの　社に下る　雨の音
梅雨空に　鹿島の杜の　碧濃

檀徒のみなさんと鹿嶋市教育委員会糸川崇さん

◆長栖　龍蔵院

○展示品などご準備いただき、経験談もお話いただき参考になりました（初参加、ほか多数）

●津波のすごさにビックリ。関東でこんなに被害があったとは知らなかった。港等、人工物を造るむづかしさを痛感した（4 回目）

●檀徒の温かいもてなしに感謝（5 回目、ほか多数）

○マンション住いのため、となり近所の付き合いがないので、地区の住人のつながりの良さに･･･（4 回目）

●神栖市知手中央に住んでいたが、龍蔵院の事は全く知らなかった。出来れば曼荼羅や不動明王の説明を聞きたかった（初参加）

○長栖区地区の 676 名の住民の方々が、2～3 軒両隣に「津波が来るよ」と互いに連絡しあいながら、被害を最小になさったことに感動しました。津波の体験を語って下さり、皆様が協力しあいながら復興されていることがよくわかりました。「人の絆」をお教え下さったように思います（初参加）

○津波を体験された方々のお話で、情報がなくても、磯のかおりや波の音で異変がわかったことや、墓石に乗っかって一時待ったこと、を笑顔でお話していただいた。その方々が最後、今寝る時、パジャマに着がえず、そのままの服装でねると教えてくださったのが印象的だった（初参加）

○何と言っても修復された仏画が素晴らしかった。文化財レスキューの存在を初めて知りました。今後関心を持って行きたい。TV や新聞では報道されなかった鹿嶋の状況を臨場感を持って聞くことができた。地元の方々の話が胸に響いた。『みんな知らない』と（5 回目）

●再度津波のおそろしさを痛感しました。文化財の復興など見聞きし大変なことと思います。ありがとうございました（13 回目）

○災害の時には近所の人達との助け合い、そして日頃から防災用に水・食料など備蓄しておくことが大切と思いました（7 回目）

○地方の小さなお寺にこんな国宝級のものが有るなんてビックリ。大都市ばかりではないと思い知らされました（4 回目）

○津波は来ないと昔から言われていた所に、港を造ったため津波被害があり、人々は本当にびっくりしたことでしょう。「水」が大切、水だけは用意してくださいと言われていました。水とどろにつかったのを修復した皆様には頭が下がります。区長さんはじめ地域の方々が大勢集まっていただき、私達を歓迎してださいました。皆様ありがとうございました（7 回目）

○長栖という海から離れている所でも、人工改変で鹿島港が出来砂浜がなくなったことから、龍蔵院も文化財を含め被害を受けてしまったことにむなしさを感じました。又地域の方々が元気を取り戻していることと津波被害を伝えているのに感動しました（3 回目）

●鹿島港を作った人間の力量と、その為に津波の災害にあったことを考えると、自然との共存を考えさせられた(6 回目)

●津浪後の修復の大変さが理解できた。文化財、特に古文書と絵画の保存管理の困難さがよくわかった（6 回目）

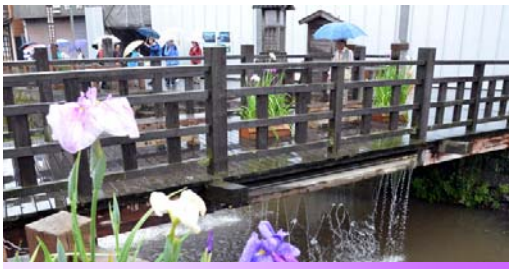
○先人達が祈りと願いをこめて伝えてきた文化財の被災に心が痛みました（15 回目）

○災害の大きさが分りました。お話をうかがい、水害だけど”水”が一番大切なもの、用意をしておかなくては･･･と思いました。文化財の保護も災害の悪い時にきちんとしておかなくてはならないと思います（9 回目）

●平時の備えが大切であることが、良くわかった。簡易トイレを用意しておこう（4 回目）

大道を　溯上り来る　大津波　たよれる者は　隣の他人

◆伊能忠敬記念館・水郷佐原山車会館・佐原の街並



小野川の　柳の木の間に　きらきらと
　　玉のすだれが　落ちる川の面
伊能地図　梅雨の佐原に　買い求む
梅雨空に　復興願う　潮来にて

〇伊能忠敬のものをまとめて見られたのは初めてで念願がかないました。山車会館は素晴らしかった、感動しました（18 回目）
〇もし伊能忠敬が生きていたら。一番苦労した場所・三陸海岸の現状をどう見るだろう（15 回目）
●伊能図に高い芸術性を感じる。地図や測量器具を見ると、忠敬の苦悩がしのばれ、強い意志や努力が伝わってくる。山車会館は見応えがある。飾り物や彫刻は迫力があり、心を打つ佐原は歴史を背負った風格のある街並がすばらしい。感激した（6 回目）
●50 過ぎの学問、独学での成果に感動した。明日からガンバリます！！（4 回目）
●いつ来いてもすごい人ですね。佐原の山車はあまり知られていませんが、すばらしいですね。昔時の繁栄がしのばれます（10 回目）
●佐原訪問は何回か経験しておりますが、今回は印象深かったです。梅雨にけむる佐原のせいか、バスの良き仲間のせいか（2 回目）
●災害の傷跡として記念館が工事中であったのが印象的である（初参加）

◆水の郷さわら・防災教育展示

ボランティア STAFF　野呂平五郎さん

●防災教育展示は充実していて見ごたえがありました（2 回目）
〇堤防の決壊の様子がよくわかりました。我が地区も決壊により、3m浸水する場所であると表示されているので、定期的に防災グッズのチェックをしていこうと思いました（初参加）
〇広範囲のハザードマップなど参考になり、ボランティアの方の説明もとてもわかりやすかった（初参加）
〇堤防のくずれる実験を見せていただきました。我家は中川のすぐ近く、あんなになったら悲しい。お野菜、お菓子がたくさん販売されていて安い！でも雨は降っているし、重いし、少しだけ購入して、あとは涙をのみました（7 回目）
●利根川のハザードマップが視覚的にとらえられて大変勉強になった。生まれ故郷の小貝川、若い時に住んだ取手、なつかしく思いました。堤防のくずれる実験はおもしろく学べました。葛飾にもあるといい（4 回目）
〇川の歴史の中で液状化する所が分かるにもかかわらず、年月とともに忘れ、普通に生活しているが、何かあれば必ず災害がおきるのですネ（9 回目）

◆その他・自由欄

●タイトルのとおり、梅雨のそぼろ降る中のバスツアー。風情があってよかったです。訪問先も盛りだくさん、のんびり、せかせか、雨しとしと（4 回目）
●地震で防災無線が壊れるということがないよう、葛飾に期待したいと思います（4 回目）
〇災害の記憶を江戸の人は「鯰絵」に、平成の人は「何に」残すのだろう（18 回目）

ツアー後記

バスツアー開始10年目にして初めての終日雨の１日となりましたが､幽玄な鹿島の杜や佐原の街並を楽しめました。長栖のみなさまには、前日からご準備で、私たちを迎えていただき感謝の念に堪えません。お話いただいたことを胸に深く刻み、東日本大震災はまだ進行中であることを人々に伝えていきます。またおめにかかれることを楽しみにしています。

担当学芸員　橋本直子
博物館専門調査員　富澤達三　補助　勝田真幸

葛飾区郷土と天文の博物館
〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101 http://www.city.katsushika.lg.jp/museum/